令和７年度 第二回山梨県文学館協議会会議録

開催日時：　令和８年３月 11 日（水）13:30～15:15
場　　所：　山梨県立文学館研修室
出 席 者：　委　員：長谷川千秋、駒沢克昭、鶴田久美子、西田遙、伏見彩、堀口美千代、
　　　　　　　　　三柴忠宏、矢崎茂男、山田茂之、山本久美子
　　　　　事務局：（文学館）三枝館長、和光副館長、天野次長、保坂学芸幹、
　　　　　　　　　　　　中野学芸課長、市川資料情報課長、
　　　　　　　　　　　　内藤教育普及担当リーダー、小林資料情報課リーダー
　　　　　　　　　　　　高室学芸担当指導主幹
　　　　　　　（指定管理者）SPS やまなし 支配人、マネージャー
　　　　　県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課：田原総括課長補佐

次　　第：　開　会
　　　　　会長あいさつ
　　　　　館長あいさつ
　　　　　議　事　　　　報告事項　令和７年度事業報告について
　　　　　　　　　　　　　　　　　令和８年度事業予定について

会議録：

議　長　　ただ今の事務局の説明について委員の皆様から、ご意見ご質問を頂戴したいと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

委　員　　先ほどの説明の「ハッピークリスマス」というイベントは、できたら続けていきたいなと思っているところですが、内容については既に打ち合わせ等していただいていると思いますので、引き続きよろしくお願いします。
　それとちょっと質問したいことがありまして、26 頁の展示事業の中で、三浦宏さんのこのミニチュアというか模型ですけど、これはどのくらいのサイズなのかということと、あと針穴の写真を撮るということは、つまり室内がかなり精巧にできているのかということを期待していますのでちょっと教えていただければと思います。
事務局　　ありがとうございます。三浦宏さんの模型は、３点を展示する予定です。資料に載せているのは菊の井という店の模型ですけれども、だいたい横巾が 80 センチぐらい、そして奥行きが 40 センチぐらい、高さは 50 センチほどだった

かと思います。これは屋根が外れないんですけれども、展示する3つのうちの1つは屋根が外れるようになっていて、中が見られるようになっています。中は、この写真ではちょっとわからないのですが、調度品類、タンスですとか、台所の土間の様子、中に井戸があるものもあるんですけれども、そういった細かい細工も木で作られています。この狭い木戸を開けてカメラを入れて撮っています。撮影したカメラ自体も非常に小さく田所さんがバンドエイドの缶に手を加えて作った手作りのカメラです。写真に人物は写り込みませんが、とても雰囲気のある静謐（せいひつ）な印象が漂うモノクロ写真のプリントを額に入れて展示するという、そういったイメージです。

委　員　　ありがとうございます。文学というとどうしても文字が主役になってしまうので、なかなかこうビジュアル的に弱いところがあるんですが、このような、見て楽しくなる展示というのは非常にいいと思いますので、このような展示を増やしていっていただければと思います。

委　員　　二歳になる子どもがいるので、「だるまさん」をすごくよく見るので楽しみだなと思いました。

目標設定について意見というか提案ですけど、13頁に活動目標が示されているのですが、見ると大変素晴らしく、また、一番最後の行動指針も素晴らしいものだなと印象を持ちましたが、こちらの年間目標の成果測定が難しいかなと思っています。

アンケートの方も見させていただくと、この成果の達成度合いを測定するためのアンケートとするならば、不十分ではないかなと。ただ、割合をみると、企画展とか、様々な企画に対しておおむね7〜8割満足されているので、この辺の問題ないし目標部分は、続けていくべきものなんだなと捉えております。

その中で提案としては、達成目標を具体的に決めるということをしたらどうかなと思っておりまして、そうしたところを協議会みたいな場で議論するようなこともいいなと思います。例えば、一案ですけれども、文学館の課題は来館者数が少ないところかなと思っておりまして、それに対して具体的な達成目標として、令和8年は県民の8人ないし10人に一人は、年に1回は来館するというところを定める。10人に一人だと8万人ぐらいとして捉えたとして、それを年間達成目標としたときに、そのためにどうすればいいのかというふうに仮説化する。美術館では今活動されているミレーの日というのが、月4、5回あると思いますが、ミレーの日の認知を県民の80%としたら、10人に1人達成できるという仮説を立てたとすると、じゃあそれをどうしたら認知80%にでき

るか、ポスターとかいろいろなアイデアを出していきます。後は、県民で観た人の口コミでどうなるとか、様々な仮説、これをすればその達成目標が叶えられるだろうという仮説を立てていく。そして立てた仮説を実際に実行してみて、上手くいったものと上手くいかないものとの違いが出てくると思うんですけど、そちらをちゃんと測定可能な項目で設定しておくことが大事だと思います。

例えば県民 10 人に一人に認知されていて来館したかどうかについては、来館時に測定できます。その方法は、例えばアンケートで聞くとか、受付で名前書いてもらうとかとなるとなかなか難しいと思うので、入口に掲示板などを掲げて、来た人たちが今年初めての来館だったらシールを貼っていって、10 万人、8 万人達成するとミレーの絵が出来上がるとか、そういった参加型の何か仕掛けを作って 33,333 人達成とかでインスタにアップするとかすると面白いです。

また、ミレーの日を、県民の認知度 80%になったらどうかというような、認知度アップの目標をオープンにしてそのパーセンテージがどう変わっていってるのかを県民に見せて働きかけるとか。

いずれにしても、目標達成ができる方法を定めて検証していくということを繰り返していくことで達成目標というのは実現していくし、その中でも様々なアイデアが湧くと思うので、繰り返しになりますけど、達成目標は一年ごとに定めて、その達成ための行動目標を定めたらいかがでしょうか。

事務局　ご意見ありがとうございます。なかなか設定が難しいと思っております。どういったものがいいか、指定管理者とも相談させていただきながら、できるようであれば、設定を試みたいなとは思いますけれども、ちょっとどんなことができるかなというところから検討させていただきたいと思っています。

今の西田委員からのご提案とちょっと離れているかもしれないんですけど、県の総合計画というものを立てていて、令和 4 年度の時点と比較して、令和 8 年度の文学館、美術館と、その他に県立博物館、考古博物館とありますので、この 4 館の利用者数の合計を 20%増やすというのを目標値にしております。そのため、まずはその目標を達成できるように取り組んでいます。常設展については、前年度の実績値を参考に指定管理者と相談しながら目標値を定めています。一方、企画展とか特設展については過去の同種の展覧会の実績値を参考にしながら目標値を設定しております。

成果測定のための仮説の設定というのは、今の時点ではお答えはできない状況ですが、年間通して立てられるものがあれば、指定管理者と相談しながら検討していきたいと思います。

委　員　　ありがとうございます。そうですね、来館者は既に 20%増という目標があって、そのための現在考えられている戦略でいうと、たぶんいい企画展のときは企画展を観に行くというところがあって、それ自体は素晴らしいんですけど、いわゆるいい企画、目立った企画のときは、行くけど、それ以外だったら行かないってなりますよね。そうではなく、年に一度は行くというような仕組み作りみたいなところがほしいなと思っていて、そのための仕組みにつながるような、たとえば毎月３のつく日は美術館、文学館に行けば面白いことがあると思ってもらえる仕掛けがちゃんと設定されていて、それがいいようにうまく進んでいれば、年一回は行くよねというような循環を作れるといったことができれば素晴らしいなと思っているので、それも含めて検討していただければと思います。

事務局　　ありがとうございます。ご提案いただいている３のつく日はミレーの日というのは、美術館の方の関係になってくるので、文学館の方でじゃあ何ができるのかなというところを考えて、できるものがあればやっていきたいなと思っています。

委　員　　学校の今の公立の校長会という形の中で、参加させていただいているんですけれども、今年でいうと、このかがくいひろしさんの企画展は子どもも好きだと思います。以前の銭天堂の企画展は子どもたちにも非常に人気があって、そのときに学校の図書館にも非常にたくさん本があって、それを読んで行こうかとか、そういう形の中で、入口は本になるのか分かりませんけれども、なかなか小学生だといきなり文学館に、連れていってくれる家庭は多くないと思います。そのために今の学校では私は、県立図書館の方に、比較的行くような形を取っています。博学連携で、活動をしているんですけれども、県立図書館にこのかがくいひろしの時期にこれを置いておくとか、こういうイベントをするとかというものがあれば、そちらの方から、じゃあ文学館へ行ってみようかという広がりを期待できると思います。もし既にしていたら申し訳ないですけれども。井伏鱒二とか、中学生も県立図書館の方にいって学習してから帰るとか、帰り道で見かけますので、そういう形の中で、いろいろな入口があると思います。ですので、やはりその中で本が好きになるとか、文学が好きになれるとか、学校の方で言えば本離れということもあるので、教育で力を入れてほしいですけれども、いろんな形の中で、連携をしていくことが大事かなと思います。その中で、学校でも例えばこういうことがあれば学校の図書室にもチラシであったりとか本を置いたりとか、そんな活動がきっとできるかと思いますの

で、いろんな連携で若い子どもたちとということであれば、そんな入口をご検討いただけるとありがたいと思います。学校現場としてもできる限りの協力というか、同じ方向を向いていると思いますので、一緒にやっていけたらと思います。

事務局　貴重なご意見をありがとうございます。まず図書館との連携で、県立図書館との連携になるのですが、連携展示という企画があって、それに申込みをしますと、例えば、八犬伝であれば図書館にある八犬伝の本をコーナーに並べて、そこに文学館のポスターやチラシを掲示してくださるということをしていただいています。図書館の方は文学館と違って貸出しができるものですから、そこに実際飾ってあるものを手に取ってみて家に持って帰って読む。図書館と文学館、文学とは非常に近い部分も多いですし、閲覧室には司書もいます。今回かがくいひろしの絵本というところで、どういった連携ができるか、これまでの経験に加えて新たに考えていければと思います。

学校についても、広報などを、これまでも行っているんですが、どうしても今年のラインナップのような八犬伝ですとか、辻邦生というふうになると、子どもさんに興味を持っていただくというのは非常に難しいので、そういったときはクイズを使って、展示を見てもらったりします。銭天堂のときのように、展覧会のタイトルを見て、子どもにまず興味を持っていただくということは、文学館の展示事業でも毎回できるところではありませんので、学校や、場合によっては幼稚園や保育所といったもう少し年齢層を下げたところや、これまで連携をしたことのない特別支援学校にもお声がけをしていきたいと思っております。

委　員　ありがとうございます。認識不足で申し訳なかったですけど、学校の方も働き方改革でチラシを配付しにくくなり、掲示はしているんですけど、チラシだけだとやはり食いつきにくいような形なので、また子ども向けのものがあるとありがたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

図書館の方もわかりましたので、また市立図書館とか学校の方でも、いろいろな本を借りたりしてくれますので、いろいろなことで図書館を使っていただく中で、広げていっていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

委　員　昨年同じことを申し上げ、繰り返しで恐縮ですけれども、本当にいろいろな工夫をされて、企画展、それから特設展等々を開催されていて敬意を表します。私が考えていることは、新しい来館者の層をいかに掘り起こすかということが大きなテーマなのかなというふうに思っています。私どもみたいに文芸が

わかる者ならまだしも、そうでない方はどうしても、足が向かないですね。実は私が所属しているのは、北杜市の教育委員会ですけれども、教育委員会の職員でも行かないのが現実ですね。私は実はサッカーとか、登山とか、そうところでも活動しているんですけれども、前、申し上げたことは、例えばサッカーのファンとか選手とか、そういった人たちがここに足を向けるようなことがあればと思うんですね。ヴァンフォーレ甲府のホームゲームは 5,500 人集まるんですね。それでチラシや企画があれば、そのチラシを配って、まったく今まで縁がなかったサッカーのサポーターたちも、こっちへ来てくれる。それがきっかけになって、文学館への感心が深まっていくのかなっていうことを感じています。来年度はすでに決まっているんですけれども、今後そんな企画が考えられればいいかなと思います。

それから山と文学、山梨の山という 24 回の連続講座というのがありましたけれども、その中でいろいろなテーマ、山の登山史とか自然などがある中に「山と文学」が当然ありましてね、そのときはですね、あの狭い（黒い館）会場でやったんですけれど平均 40 何人集まったんですね。だから、やっぱりそういう趣味の、コアな人たちが大勢いるので、そういうふうな企画を考えることによって、今までは来られなかった人が近づけるのかなと思っています。

事務局　先ほどお話しでありました、新しい来館者の層をどうやってここに呼んでくるかというところで、サッカーのヴァンフォーレという話がありましたけれども、実は昨年ヴァンフォーレの試合のときに場内のテントに美術館と文学館のチラシを置かせていただいて、皆さんに PR をさせていただきました。また、オーロラビジョンを使って、前半と後半の間で PR もさせていただきました。こちらヴァンフォーレさんと県との協定に基づいてこちらの方にも連絡が来るというような形で、できる限り皆さんに応援に行った帰りや、別日でも来ていただくというようなことも考えて、活動をしています。

また新しい、その他のファンというところでは、先ほどお話しがありました「ハッピークリスマス」ですとか、そういうイベントを通じて新しい来館者、お子さんですとか、若い層の方をここに呼んで来て、その方たちが体験を通じて文学館に親しみを持ってもらうということを通じて、来館に繋げていくという活動を、指定管理者として継続していくつもりです。

委　員　キャッシュレスの導入のところなんですけど、資料だと施設貸出し費用のキャッシュレス支払い可能というのが書いてあるんですけど、入館料とか複写費用とかはキャッシュレスの対象外なんですか。

事務局　　観覧料は既に可能で、美術館文学館ともに、令和５年からキャッシュレス決済を導入しています。使用料の方は準備が整わずにここまで来てしまいましたが、ようやくここで導入できたというところです。コピー代については対応してないです。

委　員　　私はここでコピーしたことがないのですが、可能だったらコピー代もキャッシュレスでできたら便利じゃないかなとは思いました。

あとインスタグラムのことで気になっていることがあって、先ほどちょっと携帯で見たらフォロワー数とかハートマークの数とかは、結構たくさんあるんですけど、アンケート上、「インスタグラムを見たことがきっかけで文学館に来ました」というのがほとんどなくて、ただインスタグラムを見た感じからすると、インスタグラムが何の効果もないのかというとそんなことはないんじゃないかなと思ってまして、現状の文学館のアンケートの来館のきっかけ欄にインスタグラムとかＸのことは書いてあるんですけど、それ以外にも、そもそも「インスタフォローしてますか」とか、「どういう内容があったらいいですか」みたいなアンケート項目って特にないので、今は、インスタの効果とかインスタの役割などが測れてない状態なんじゃないかなということが気になっています。それを見て一番の入館のきっかけにならなくても、フォローしている人は割とこの施設に来る方なんじゃないかなと思うので、何かそういう人たちが期待するような内容があればいいんじゃないか、今年の企画でいうと、かがくいさんの企画展とか、模型の展示とか発信する際に、絵的によさそうな広報じゃないかなと思いました。

あと、事業の内容で意外とありそうなのにないんだなと思ったのが、読書会とか、特定の近代文学とか年代ではなく、文学史の全体を知るような講座とかイベントが意外とないんだなとか思いまして、別にこれに入れてほしいのではないんですけど、今までと違う企画を立てる場合にはいいのかなと思いました。文学史に興味のある人もいるというところもありますけど、即物的な話で申し訳ないんですけれども、受験の問題で、何とか派とか、この作家の代表作は何かみたいな問題って、多くはないけどちょっとずつ出たりするので、YouTube で文学史を学ぶ動画みたいなのは、それなりに再生回数あったりするので、こういう言い方をしていいかわからないんですけど、受験に役立つよ、みたいな、何か発信の仕方もあるのかなと思いました。

事務局　　まずインスタの話から、触れさせていただきます。インスタのフォロワー数はそれなりに獲得していますが、きっかけとして上位に上がってきていないというのは確かに言えると思います。こちらとしても明確な理由を持っているわ

けでないですけれども、ひとつ言えるのがフォロワーはリピーターの方が多いのではないかということで、その方たちがもしかしたらアンケートに書いていないんじゃないだろうかという仮説を持っています。先ほどアンケートというお話がありましたけれども、今までアンケートで効果を図るような取組を行っていませんでした。マイクロソフトフォームズとかを使えば多くの方の声を集めることができると思います。ポスターやチラシなど、従来の紙媒体は作成に時間がかかりますけれども、SNS は作ってすぐに上げることができ、リアルタイムの効果には非常に強いところがあると思いますので、やり方を含め、検討させていただきたいと思っております。

事務局　　文学史や作品の読書会のようなものがあまりないというご意見をいただきまして、思い出したのが、大学の国文科の先生から、今の学生は作家同士の繋がりに興味を持つ学生が多いというお話を伺いました。また、書店で大学受験で使うような国語便覧が売れているというようなことも聞いたことがあります。今、文学館の常設展は、作家ごとのコーナーで展示をしているので、作家同士の繋がりは、見えにくくなっています。例えば井伏鱒二と太宰治は師弟関係だったとか、さっきおっしゃっていただいた白樺派とか、そういう文学の派閥みたいなものもあるということは、展示の中ではなかなか紹介に至っていないかなということを気付きました。受験に役に立つところまでいくかどうかはちょっと自信がないんですが、そういったところにも若い世代は興味があるということも聞いておりますので、展示や講座などでも取り入れていければいいかと思いました。貴重なご意見をありがとうございました。

委　員　　私は初めての出席で、過去に話があったかもしれないのですがちょっと知らないので教えていただければと思います。まず文学館の存在の強みというのはどういうことでしょうか。例えばこういう研究をしているとか、山梨県立文学館の特徴というか、中学生や小学生に説明をするときにはどういう説明ができますか。教えていただけますでしょうか。

事務局　　ありがとうございます。まずはやはり山梨県にゆかりのある文学者の資料を収蔵しているというところです。この文学館ができるときに、地元の方々が資料の散逸を非常に心配になられて、笛吹市境川の出身である俳人の飯田蛇笏、それから両親が塩山の出身の樋口一葉、そういった方たちを始め、こちらに生まれた方たちではなくても、山梨を訪れたり、山梨を舞台に作品を書いたりといった作家の方たちを常設展で展示しております。井伏鱒二、太宰治、芥川龍之介などがいますけれども、そういった文学者の資料を収蔵している、その直

筆、あるいは愛用品、図書、雑誌も含めた資料を収蔵しているということはまず大きな強みだと思います。

そしてこちらに来ていただければ、文学に興味のある方たち、これから文学を学ぼうとしている児童、生徒、学生さんたちに、資料を始め、文学の情報なども提供できる、またここで、そういったことを学ぶことができたり、そこで行われる講演会、催しに来ていただけるという、そういった場であることがこの館の強みだと思っております。

委　員　　ありがとうございます。そのままを発展させることに意味があるのかもしれないんですが、先ほども若い人は、いわゆる作家同士の繋がりなどに非常に興味があって、あと私の知る限りでは、意外にアニメ、漫画の、作家や文豪たちのキャラクターが出てくるものも、たぶんそれなりに人気がある。私は漫画は見てませんが、アニメは見ました。文豪ストレイドックスなど、そこに樋口一葉が出てきたりとか、芥川龍之介とかが出てきたりとか、たぶん漫画家さんのイメージでキャラクターが作られているんですが、そういったところでも若い人たちがすごい関心を持っているのにそこと結び付いてないのかなというのがあります。先ほどもおっしゃってました、直筆の強さ、本人が書いたというものの強さ、単純に文庫本じゃない強さ、そこから逆から見れるのかとか、漫画の先生はこういうキャラクターにしているけど実はこういうキャラクターですよとか、含めて分析ができるのかとか、たぶん味わい方、楽しみ方はたくさんあって、本物があることの強さってあるんじゃないかなと思います。

あと、世の中の関心って、我々が考えている以上に膨らんでいるんじゃないかって、そこを結びつけられていないんじゃないかなという思いがあります。刀だけでも、ものすごい人が見に来る、それは動機が不純なのかも知れませんが、ただ取っかかり、引っかかりがあると、そういう楽しみ方があるのかなと思います。そういった部分でいろいろな窓口、もしくは、ちょっと苦労されるかもしれませんがコラボっていう、山梨の文学館に行ったら、もしかしたらキャラクターの文字で、こういう性格が見えてくるよとか、そういう研究を毎年更新してくるよとか、そういったことをすることが、何か手なのかなと単純に思ってしまいました。

あと、隣の美術館の方で、山下清展の観覧者がすごい多かったと聞く中で、私の中で分析をしたんですが、あの展示会は誰が行ったのか、有名な人が見に行ったのかとか、若い人が見に行ってるのかとか、どういった層があえて見に行ったのかっていう部分を分析すると、もしかしたら展示の仕方なり、広報の仕方も変わって来るのかな、有名人を持ってくればいいのか、そうではない何かがあるのか。山下清と言ってもたぶん若い人は知らない。もしかしたらお年

寄りだけが行ったかも知れないですけど、もし若い層が行ってたなら、何かそこにもヒントがあるかもしれないという部分かなと思いました。

まとめて言いますと、これまでのレギュラー層をどう逃さないかということと、全国から見てどういうことができるのかという部分、ここの文学館の強みを出しながら、上手にアピールしながら何か掴めるのかなと思った次第です。

事務局　　ありがとうございました。今、おっしゃってくださった文豪ストレイドックスの話ですけれども、以前、展覧会でコラボをして、キャラクターがイコール現実の作家のキャラクターではなく、見た目もびっくりするぐらい違うのですが、ですけれども、あれだけの人が熱中するわけで、本当に作品を読んでくれるのかなとか、興味を持ってくれるのかなというふうに疑問を持ったのですが、いざ展示会が始まったら、初めて開館時間の前に並んで待っていてくださる方が、キャリーバッグを持って若い女性が並んでくださったのを見て、あぁ、本当に好きで来てくれるんだなと、その情熱に驚きました。そして、展示室内では、じっくり一点ずつ資料を見てくださって、自分の推しの作家がこんな字を書くんだと言って、非常に長い時間をかけて見てくださったので、本当に変な気持ちを持って申し訳なかったなくらいに思いました。

ただ、いわゆるアニメや漫画のコラボについては、いろいろな制限があったり、権利関係などもあったりするんですが、これからもできる限り、積極的にコラボができるような形で進めていくようにしたいと思っています。ありがとうございます。

委　員　　たぶん何度やってもよいと思います。あとは、自分だったら作家さんの現実の字を見てもらって感想をもらうとか、そういうのも含めて、たぶん不安定で新たなものとか、それはそれで研究次第で、展示の仕方も数を多く置いた中で、この字はこういう癖があるんだとかを含めた、何かそういうキャラクター性、ストーリー性が見えていくと、文学でありながら、字って芸術でもあるので、そういったところを子どもも含めて楽しめると思います。なかなか人や時間もとれないと思いますが、そういった研究を発表していただいて楽しんでいただけたら、必ず小学生、中学生は文豪の名前は知っているという強みをどうやって掴むか、知らない人間ではないはずなので、そこを掴むしかないのかなと思います。全く知らない人を知ってとは言ってないと思うし、そうではないので、そこから楽しめるのかなと思いますので、そのような展示をお願いします。

事務局　　心強いご意見ありがとうございました。

事務局　　美術館の山下清展ですね、アンケートの結果から申し上げますと、実際には高齢者の方がほとんどです。ほとんどとまではいかないですけれども、アンケートの結果では 60 歳以上での括りでいうと半分以上ですね。美術館、文学館とも、高齢者の方が多いというのは常日頃からその傾向はあるんですが、特にやっぱり山下清ですね、おっしゃっていただいたとおり、一定の年齢層から上の人は誰でも知っている、裸の大将のイメージですけれども、一定の年齢層の人は知らない、極端にその知名度に差があるというのは感じています。広報にしましても、今回の文学館の八犬伝もそうなんですが、知名度というのは、私ども広報をやっていく上では非常に強い味方になると感じています。ですので、一昨年の銭天堂もそうでしたけど、そのテーマによって響く層がぜんぜん変わってくるのですが、知名度を最大限に生かせるような広報、八犬伝なら八犬伝の名前が伝わるようなチラシを作るとか、些細なことではあるんですけれども、そういったところが課題かなと取り組んでいるつもりです。

委　員　　来年度の展示内容の方、かがくいさんとか一葉の模型が、視覚的にも楽しめるので期待したいなと思っています。

それと比べると、4 月からの特設展の昭和文学をふり返るというのが、ちょっと地味というか、内容がちょっと漠然としている感じがするんですが、具体的にどんな切り口でテーマを絞っているかとか、どんなふうに見せるのかなというところがありましたら教えてください。

事務局　　ご質問ありがとうございます。春の特設展ということで、副題にも収蔵資料よりと記してありますように、これまでの文学館の収蔵資料を活用して行います。ちょうど今年政府の方でも昭和 100 年の催しがあると思います。100 年という区切りを迎えるにあたって、昭和自体は 62 年あまりの、非常に長い期間になりますので、ふり返るにしても非常に変化もある、幅もあると思います。ただその時代の幅の中で、様々な文学の流れがあったということ、昭和という時代が大きな戦争を挟んで非常に社会事情とか、社会制度とか文化、価値観とかが、いろいろ変化したというところを、全体的にこう感じていただけるようにはしたいと思います。また、ただそれを、具体的な作家の名前や作品名、それに合わせて、昭和を生きた人にはいろいろ思い出深い出来事、そういったことも資料だけではなくて、できれば写真やビジュアル的なものを含めて、時代を遡ってふり返ってというふうにしたいと思います。

山梨県立文学館の収蔵資料となりますと、出身、ゆかりの作家のものがどうしても多くなりますので、説明にもあるような、常設展でも扱っているような

井伏鱒二や太宰治やそういった作家が多くはなりますけれども、改めて館蔵資料を見ていきますと、林芙美子とか壺井栄とか、常日頃の常設展などではなかなかご紹介する機会も少なかった、そういう作家の資料も、いろいろあるということも改めて、企画をしていく中で見えて参りましたので、その作家の名前を聞いてピンとくる世代の方にもまた、そのアピールができる思いますし、知らなかったという方にも昭和という時代にこういう様々な文学が出たというところを、上手く伝えられるように組み立てたいと思っております。

おっしゃるとおり、かがくい展とか一葉の模型のような、ちょっとそういうインパクトを特徴付けるというところの手がかりが難しいところがありますけれども、ひとつ時代の区切りということでは、館として必要な催しかなというふうに思っています。またいろいろアドバイスいただければと思っております。

委　員　　ありがとうございます。そうですね、なかなか昭和100年というのも長い時代で、戦争なのかそれ以外も移り変わって、難しい表現、限られた地元の作家を中心にというと難しいのかなと思っています。

昭和というとちょっと戦争だとか暗いイメージもあるんですけど、今、昭和レトロとか平成の流行とか、いろいろもう既に懐かしい感じで、昭和ですと若い方にも人気なのかなというふうに思って、まぁちょっとぜんぜん違うと思うんですけども、ちょっととっつきやすい何かがあると、入りやすいのかなというふうに思いました。よろしくお願いします。

委　員　　私は月に一度、そこの売店でボランティア活動をしているんですけれども、ここの来館者の割合について、県内と県外がほぼ同数ということですが、やはり売店に立っていて、県外の人が意外と多いなという実感はありました。その中で海外のお客さんが３名いて、その３名の中の１名とお話したことがあったんですけれども、本当に熱心な若い男性で、夏目漱石がとても好きで、ワクワクしながらわざわざ一人で来ました、という話を聞いて、あ、こういう人もいるんだなっていう、すごく感動した想い出があります。そういう人たちのお話をうかがう中で、ちょっとカフェみたいのがありましたよねみたいなお話をするときがあるんですよね。私もボランティアをする前に、何度かこちらにお邪魔するときに、寄ったことはないんですけれども、あ、そういえばカフェあったなという記憶があったので、やはり文学館でちょっと展示なんかを見て、その余韻に浸るのにちょっとしたそういうスペースがほしいのかなというふうにも感じました。

先ほどもパブリックスペースを充実させるというのがありましたけれども、

事業的に、いろいろな諸事情があると思うんですけれども、将来的にこのような場所ができたらまた文学館での時間もより豊かになるのではないかなということも少し感じました。実感として、そう感じたので少しお話させていただきました。

事務局　　ありがとうございます。もともとカフェは令和５年度まで、前の指定管理期間で、私どもの指定管理の中で美術館のレストランと、こちらのカフェとあわせて運営していました。現在の指定管理期間に美術館のレストランが私たちの枠組みから外れるにあたって、こちらの休憩スペースは引き継いでいるんですが、カフェという形で運営するには売り上げとかを考えますと非常に厳しくて、前は２館一体でやっていたので何とかできたのですが、単独で売り上げを上げていくということを考えると、なかなか厳しく、他の活動資金を削ってしまうということになりかねないので、一旦は休憩スペースという形で置かせていただいています。カフェを望む声というのは確かにありますが、現状、どうにかするというところは難しいかなと思ってますので、そのへんは県と相談のうえ、検討していければと思っております。

議　長　　ありがとうございます。他にはいかがでしょう。よろしいですか。

では様々なご意見が出て参りました。非常に貴重な提案などがあったと思うのですが、私が、お話をうかがっていて、30 頁にあるような広報活動が少しずつ様々な試みがなされていて、南総里見八犬伝ではホームページの表示回数が具体的に即効性があるというふうなことも見えてきていますので、こういう成功事例を上手く使いながら、ぜひ引き続き広報を頑張っていってほしいなというふうに思います。

インスタで新収蔵品展のここを見るといいよというようなポイントが動画で紹介されているということなんですけど、その幾つか上がっている動画で一番見られているのはどれか、それを分析していただくと、次にこういうところを見たら面白いと思うんだなという分析ができると思いますので、そのへんのところも、やっていただけるといいなと思います。先ほどから展示事業のことで様々な質問が出ているわけですが、やはり象徴的だなと思うのは、特設展の昭和文学をふり返るというものが、この文学館にとっては一番の強みというか、研究の成果がここで展示されていくのではないかというふうに思うのですが、それに対して、この有識者のメンバーでさえ意見が出てこないものだというところが、非常に象徴的だなというふうに思っております。どんな切り口なのかというのが、具体的にこれから検討されていく中で見ていくと、じゃあこの切り口で広報していきましょうというのが見えていくはずですので、非常に面白

い企画だと思います。100 年間の昭和をふり返って、どんな文学が展開されていくのか非常に面白そうなテーマではあるので、それをわかりやすく、あまり文学に馴染みのない方々にも、じゃあちょっと観てみようかなということが、例えばインスタでそれが投稿されている、こんな切り口があるよというような、4 月 25 日の前に、意図的に流されているというようなことも、ご検討いただけるといいかなというふうに思っております。

　また、先ほど来、作家同士の関係性に若い人が興味を持つとか、幾つか面白いなと思ったことが出てきているのですが、先日熊本に行った際にですね、夏目パージアムという文学館に、本当に小さな、ここの三分の一ぐらいのスペースの中で、夏目漱石の旧家がホテルになっていて、そこに、せっかくだから漱石に関わりのある文学館を置こうと考えたのですが、文学館って嫌でも夏目漱石であれば関連のものがあるから、思いっきり若い人たちに託したようなんですけど、パージアムっていうのは造語だそうです。パーソナル、夏目漱石のパーソナリティと、それからミュージアムっていうのを掛け合わせて、その夏目漱石のパーソナリティを紹介する展示、それが写真も撮れるのでインスタに上げられたりできるような、いわゆる「映（ば）える」展示をしているんですね。また良かったらご覧になってみてください。そういったものが、恐らく今の若い人たちは見てみたい、文学についても知ってみたいっていうふうに思えるのかななんていうふうなことがありました。こんな三分の一で 1,000 円も取る、高い、うっかり入っていったら、そこから先は有料ですよと言われて、入らざるを得ない状況になって、高いなとは思いました。たぶんそれだけのもの作るのにお金がかかるんだと思うのですが、何か切り口として参考にしていただければというふうに思います。

　それとですね、企画展、特設展の方ですが、模型と写真で、樋口一葉の特設展の話ですが、こちらはかがくいひろしというように、子どもたちが馴染みのある絵本がテーマになっているとか、それから恐らく小さな模型とか針穴写真とかが好きな人がいっぱいいますよね。こういう人たちが、足を運ぶことができそうな企画ですので、ここは広報を工夫されるといいのかなというふうに思っています。いろいろな意見が出てきましたので、また参考にされるといいと思うのですが、私もちょっと聞いていて思ったのが、子どもたちがお父さんお母さん、保護者と一緒に行く場所に、図書館もいいんですけど、もちろん行っていただきたいんですが、図書館以外の子どもたちがいく場所にチラシを置くっていうふうにすると、絵本はきっと読んでいるだろうから、だるまさんシリーズは知っているだろうから、「あ、行ってみたい！」というふうになる。出掛けている人たちだから、じゃあ文学館だったら車で行けるよねって言って行

くかもしれないし、ちょうど思いついたのがおしろらんどなんですけれども、そういった文学とはあまり関係ないけど、子どもたちが行く所にチラシを置くとか広報するというのが手かなというふうに思っています。

それから先ほど、西田委員がとても刺激的な提案をされていまして、私も大学勤めですので、大学でこういう提案されたら、「うっ」てなっちゃうだろうなと思って聞いていたんですが、たぶんこういう視点が、これからの文学館とかの経営を支えていく視点になると思うので、これからもぜひ意見を言っていただきたいなと思います。できることから少しずつ、全部いきなりは難しいと思うので、できることからやってみるというようなことをしていただければ、本当にありがたいというふうに思います。

カフェにつきましても、本とコーヒーはとても相性がいいものですし、スイーツがあればスイーツが好きな方が来るでしょうし、またそういうことをいろいろ考えるだけでも楽しくなってしまいますので、ぜひ楽しみながら文学館をよりよくしていくことをみんなで考えていければというふうに思いました。

以上、簡単にまとめさせていただきましたが、重ねて皆様からご意見ご質問などがもしありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。活発なご議論いただきまして、本当にありがとうございました。2番のその他に移らせていただきます。何か皆様からございますでしょうか。

事務局　それでは、その他として報告事項でございます。観覧料と施設利用料の改定についてのご報告ですが、これは県の方で全庁的に進めていることですけれども、近年の物価上昇を踏まえまして、今ちょうど開会しております二月定例県議会に県立施設の使用料の改正案を上程しております。議案として提出された段階ですので、今、資料はお配りしておりません。口頭で説明させていただきます。

観覧料と施設利用料の改定について、他の県立施設も含め、物価変動を元にした物価スライドによりまして、一律改定することになっております。一例を申しますと、この改定によりまして、文学館の常設展では個人の方から330円をいただいているんですが、380円に、50円アップという形で改正されます。企画展の方は、観覧料の上限が、条例上は1,100円となっておりまして、その上限が1,230円というふうに改定をされます。この企画展の観覧料については、個人の方の場合、これまで600円としてきたんですけれども、今回の改定を受けまして、企画展の観覧料をいくらに設定していくかというのは、今後また県庁内で協議することになっていくかと思います。それと合わせまして、これまで常設展の方については、県外にお住まいの65歳以上の方の観覧料を免除して参りましたが、これも改正という形で、他の県立施設も同様なんです

が、県外にお住まいの 65 歳以上の方の観覧料は免除対象外となることになっております。

この改正案が議会で議決された場合ですが、改正される期日については周知等に一定の期間が必要ということで、一年間の猶予期間が設けられておりまして、令和 9 年 4 月 1 日からとなります。以上、ご報告申し上げます。

議　長　　ありがとうございました。今の点につきまして、何かご質問などございますか。よろしいでしょうか。では以上で議事を終了いたします。拙い司会ではございましたが、ご協力ありがとうございました。